

考古学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
考古学特論Ⅰ	人類の進化と考古学	2	佐野 勝宏	1学期	月	2	考古学特論Ⅰ
考古学特論Ⅱ	考古学の方法と実践	2	佐野勝宏	2学期	月	3	考古学特論Ⅱ
考古学特論Ⅲ	先史文化の考古学	2	菅野 智則	2学期	木	4	考古学特論Ⅲ
考古学特論Ⅳ	西アジア考古学の諸問題	2	有松 唯	集中(1学期)			資料基礎論特論
考古学研究演習Ⅲ	考古学研究史	2	阿子島 香 鹿又 喜隆	1学期	金	4	
考古学研究演習Ⅳ	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆 阿子島 香	2学期	金	4	
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	阿子島 香 鹿又 喜 隆	1学期	水	3,4	考古学研究実習Ⅰ
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析(2)	2	鹿又 喜隆 阿子島 香	2学期	水	3,4	考古学研究実習Ⅱ

科目名：考古学特論 I / Archaeology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏（教授）

講義コード：LM11204， 科目ナンバリング：LJS-HIS619J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：考古学特論 I 】

1. 授業題目：

人類の進化と考古学

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology and Human Evolution

3. 授業の目的と概要：

この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学びます。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, the correlation between the development of archaeological cultures and the human evolution are explained. Students better understand the significance of the biological evolution of humans and cultural development by learning the advances in cognition, behaviors, cultures and societies corresponding to the human evolution.

5. 学習の到達目標：

人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students are supposed to learn the basis of the human evolution and the development of archaeological cultures so that they can better understand the evolutionary significance of the advances in archaeological cultures.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人類の進化史
3. 道具の出現と発達
4. 火の利用の起源
5. 原人・旧人の出現と拡散
6. ネアンデルタール人
7. DNA 研究からみた進化史
8. 旧人・新人の交替劇
9. 道具の複雑化
10. 旧石器時代の芸術
11. 言語の発達
12. 新石器文化の拡散と受容
13. 家畜化の歴史
14. 語族の起源と考古学
15. アイスマンの衝撃

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：

特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：考古学特論Ⅱ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：佐野勝宏（教授）

講義コード：LM21303， 科目ナンバリング：LJS-HIS620J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：考古学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

考古学の方法と実践

2. Course Title (授業題目)：

Archaeological Method and Practice

3. 授業の目的と概要：

考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われます。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学びます。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Archaeological studies are practiced using multiple analytical methods. In this course, students understand the analytical methods and its procedures. Students also practice some important analytical methods.

5. 学習の到達目標：

考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students are supposed to learn diverse analytical methods and to better understand how the analytical methods are practiced for archaeological studies. Students learn the procedures by practicing some analytical methods themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 考古学における気候変動
3. 古環境の復元方法
4. 考古学における編年研究と年代測定
5. 暦年較正の方法と実践
6. 遺跡形成研究
7. 実験考古学の方法
8. 実験考古学の実践
9. 行動パターンの復元
10. DNA 研究と考古学
11. 考古学におけるデータ解析
12. GIS 考古学の方法と実践
13. 3D 考古学の方法
14. 3D 考古学の実践
15. 考古学における学際研究

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：

特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：考古学特論Ⅲ／ Archaeology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：菅野 智則（特任准教授）

講義コード：LM24401， 科目ナンバリング：LJS-HIS621J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：考古学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

先史文化の考古学

2. Course Title (授業題目)：

Archeology of the prehistory culture

3. 授業の目的と概要：

本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、縄文文化は、これまで環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集民文化との比較研究がなされてきました。本授業でも北米北西海岸部における先史文化に関する研究を解説し、縄文文化の相対的な位置を理解し、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- (1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。
- (2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。
- (3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 回目：本授業の1年間の講義内容を概観することにより、授業の目的と到達目標について理解する。

2～4 回目：縄文時代研究史について解説する。第2次世界大戦前後における縄文文化研究、1980年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の3段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。

5 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。

6 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。

7～12 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の3期に区分して、それぞれの時期に関して2回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。

13～15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。

8. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・ (○) 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。

10. 授業時間外学習：

講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）

科目名：考古学特論Ⅳ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (1学期), 単位数：2

担当教員：有松 唯 (非常勤講師)

講義コード：LM98811, 科目ナンバリング：LJS-HIS622J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：資料基礎論特論】

1. 授業題目：

西アジア考古学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Current Issues on West Asian Archaeology

3. 授業の目的と概要：

西アジア考古学の専門的知識を習得し、関連する理論的枠組みについて理解を深めることを目的とする。古代社会の歴史展開を総合的に解説するとともに、画期を成すイベントについては近年の考古学的発見や理論研究の進展も紹介する。また、こうした知識の獲得を通じて、歴史認識や発展経路についての一般的な説明に対して独自の問題意識をもてるようにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The main objectives of this course are to get the basic knowledges of West Asian Archaeology and to understand the theories as well as current field researches, focusing on the major events on the evolutionary process such as domestication, urbanization, and state formation. This course also provides learning how to get original perspectives for general interpretation regarding history and evolutionary process.

5. 学習の到達目標：

1. 西アジア考古学についての専門的知識の習得。
2. 西アジア古代史の画期として設定されている現象について、関連する社会理論ならびに近年の研究動向をふまえて、自身の見解を述べることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The main goals of this course are to get the basis of knowledge concerning West Asian Archaeology and capability to construct original perspectives for the major historical events considering the social theories and research trend.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 西アジアの地域紹介
2. 西アジア考古学における古代社会の発展経路
3. ドメスティケーション
4. 非農耕定住社会の発達
5. 象徴革命
6. 都市と文明：理論と方法
7. 都市化プロセスの多様性：北メソポタミア
8. 都市化プロセスの多様性：南メソポタミア
9. 考古学による国家研究：国家概念の歴史的展開
10. 考古学による国家研究：理論と方法
11. 考古学による国家研究：中心と周辺
12. 古代国家の類型と系統
13. 古代国家の事例：アッシリア
14. 古代国家の事例：アケメネス朝ペルシャ
15. 西アジア考古学による古代社会発展経路の再構築

8. 成績評価方法：

授業への参加姿勢 [30%]・筆記試験 [70%]

9. 教科書および参考書：

授業時に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：考古学研究演習Ⅲ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：阿子島 香 鹿又 喜隆（教授）

講義コード：LM15402， 科目ナンバリング：LJS-HIS625J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar of Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：

日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、受講学生が各自の研究方向を見出します。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化の特徴、東北地方の城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学などの課題があり、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行います。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will understand history of archaeological study in Japan since Maiji era and establish their own idea about archaeological study. In every class, students prepare their own presentation paper and discuss archaeological issues each other. For instance, issue concerns chronology and technology in Palaeolithic period, typology of Jomon pottery, settlement and society in Jomon period, emergence and development of cultivation, characteristics of Kohun culture, ancient fort sites in Tohoku region, ancient ceramic industry and society of Middle Ages and Modern time.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解する。(2) 各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students understand (1) history and epoch of archaeological study in Japan, and (2) problems and the present condition according to their own theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 学生による研究発表と議論
3. 学生による研究発表と議論
4. 学生による研究発表と議論
5. 学生による研究発表と議論
6. 学生による研究発表と議論
7. 学生による研究発表と議論
8. 学生による研究発表と議論
9. 学生による研究発表と議論
10. 学生による研究発表と議論
11. 学生による研究発表と議論
12. 学生による研究発表と議論
13. 学生による研究発表と議論
14. 学生による研究発表と議論
15. 学生による研究発表と議論

8. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他（具体的には、発表と議論）[40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

研究演習Ⅲ、Ⅳを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究演習Ⅳ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆、阿子島 香（教授）

講義コード：LM25402， 科目ナンバリング：LJS-HIS626J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar of Archaeological Method and Theory

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students are introduced to the method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：

発表内容は時間外に各自がまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

研究演習Ⅲ、Ⅳを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究実習Ⅰ / Archaeology (Advanced Field Work)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時、前期 水曜日 4講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：阿子島 香、鹿又 喜隆（教授）

講義コード：LM13302， 科目ナンバリング：LJS-HIS627J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：考古学研究実習Ⅰ】

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至るまでの一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides opportunities to experience excavation, operation of archaeological materials, projected drawing of artifacts, layout of drawing, taking photographs for editing the excavation report. Students will obtain actual techniques and methods for archaeological study through this course.

5. 学習の到達目標：

考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students learn methodology to make an excavation report for basic archaeological study. They also learn about planning and methods for archaeological fieldwork.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①

第2回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）②

第3回：発掘調査実習①

第4回：発掘調査実習②

第5回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）③

第6回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

第7回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

第8回：遺物の実測と製図①

第9回：遺物の実測と製図②

第10回：遺物の実測と製図③

第11回：遺物の実測と製図④

第12回：遺物の実測と製図⑤

第13回：測定の基礎と機器の操作①

第14回：測定の基礎と機器の操作②

第15回：測定の基礎と機器の操作③

定期試験 有

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）「30%」

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：

夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

研究実習Ⅰ・Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学研究実習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆、阿子島 香（教授）

講義コード：LM23302， 科目ナンバリング：LJS-HIS628J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：考古学研究実習Ⅱ】

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析（2）

2. Course Title（授業題目）：

Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifacts from the investigation by the Laboratory of Archaeology, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University are used in the class. The method of analysis and production of excavation reports are practiced during the class hours. A heavy load of homework (off class hour laboratory work) are expected. Good commands of the Japanese language are necessary especially during discussion and laboratory work.

5. 学習の到達目標：

(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（1）。
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（2）。
3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
10. 写真撮影（1）。
11. 写真撮影（2）。
12. 写真撮影（3）。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（1）。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（2）。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）[30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：

講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱを連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。

